



会長 岩 淵 正 彦
 幹事 高 橋 利 光
 会報 江 川 元 徳 清 水 健
 猪 股 育 夫 村 上 武 彦

例会場 ホテルサンシャイン佐沼 ☎22-8180 FAX22-0327
 例会日 毎週木曜日 12:30~13:30
 事務所 ホテルサンシャイン佐沼 ☎22-8180 FAX22-0327

第2544回例会 2016. 4. 7 No.38

本日の出席率

・本日の出席率 100%

ニコニコボックス

- ・岩淵正彦会長 今日は八谷郁夫委員長のロータリー情報委員会フォーラム宜しくお祈りします。
- ・八谷郁夫会員 ロータリー情報フォーラムにおつきあい下さい。
- ・鈴木彦太会員 ロータリー情報委員会のフォーラム、八谷郁夫委員長並びにパストガバナーのご活躍を大いにご期待を申し上げます。
- ・飯塚仁哉会員 佐沼RCの重鎮八谷郁夫会員のスピーチ、心して聞きましょう。
- ・江川元徳会員 Panama Papersが発表した、世の中“不公平”のことも多くてNico Nicoできませんね！
- ・菅野幸一郎会員 八谷郁夫ロータリー情報委員長のフォーラムにご期待します。
- ・佐藤静市会員 八谷郁夫ロータリー情報委員長のフォーラム、勉強させていただきます。
- ・菅原文之会員 八谷郁夫ロータリー情報委員長の、いつも内容の濃いフォーラムを感謝し期待します。
- ・猪股育夫会員 八谷郁夫PPのロータリー情報委員会フォーラム、勉強させていただきます。
- ・高橋義文会員 本日、PDG八谷郁夫のフォーラムを期待致します。
- ・高橋利光幹事以下 本日のフォーラムに期待して。
 村上武彦会員 佐々木崇会員 佐藤敬喜会員
 山田直志会員 佐々木源悦会員 熊谷敏明会員
 菅原慶一会員 小野寺伸浩会員 富士原裕子会員
 岩淵栄市会員 杉田広仁会員 佐藤早智子会員
 大畑好司会員 千葉正宏会員
 以上、ありがとうございました。

会長要件 岩淵正彦会長

4月は、色とりどりのランドセルを背負った新入生、又新しい背広姿の新入社員、初々しく見えるのは私だけでしょうか。新しいランドセルが子供の体よりも大きいようにも見え、まるでランドセルが歩いてるようで何かと微笑ましい思いがします。

今度のお花見移動例会に、余目ロータリークラブの会長以下何名の会員が参加されるのか思案しながら先週配布されたロータリーの友を見ていたら、縦組のトップに「おらほの言葉」庄内方言記録者、樋渡浩氏の記事が載っていました。庄内方言とは、旧余目町を中心とした地域の方言です。読んでいましたら、当クラブの岩淵栄市会員の「おらほの方言集」を思い出し、ずい分と違い理解不能な言葉が載ってありました。同じ東北でも全然違うと思いました。

今度、お花見移動例会でお会いしましたら、これを話題にして大いに盛り上がりたと思います。

幹事報告 高橋利光幹事

・菅原裕典ガバナーより
 地区大会出席に対するお礼状が届く。

各委員会報告

・ロータリー財団委員会 (高橋義文委員長)
 今月のロータリーレート 1ドル=116円

フォーラム

・ロータリー情報委員会 (八谷郁夫委員長)
 今年は岩淵正彦会長が、毎週毎週いろんなロータリー情報を伝えていただいていますので、皆さんには

十分にロータリー情報が伝わっているのではないかと
 という感じがしております。

今日は変わった方面から見るといことで、職業そのものではなく職業観ということで話を進めさせていただきます。

- ・職業とは一定の社会的分担もしくは社会的役割の継続的遂行活動であり、従事者にとっては生計の資を得る為の手段。生計維持手段と社会的役割の二面性を持っております。
- ・個人的な意義としては、能力発揮、自己実現、生きがい、社会的地位の指標となり、社会的連帯性が求められるということです。
- ・社会的には、倫理、道徳性が求められます。
- ・自給自足、盗み(反社会的)、奉仕活動等は職業とは言えません。

○ロータリーの職業観

ロータリーの第一モットーは「超我の奉仕」(Service Above Self) であります。

職業観は「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」(They Profit Most Serve Best) という考え方で、Service、協力が経営の基本である。職業奉仕の根幹を作ったのはロータリアンであるA・Fシェルドンです。

「買い手の自己責任」⇒「売り手の責任」「企業責任」「企業倫理」

昔は買い手の自己責任、買う人がちゃんと物を見て買わなければだめなんだという考え方がありましたが、最近では売り手の責任というものが追求されます。又、企業責任、企業倫理が問われるようになりました。

職業奉仕と社会奉仕の違いは受益者の違いです。恩恵を受ける人が誰かということによって、職業奉仕か社会奉仕かになってきます。

○プロテスタントの職業観

プロテスタントに属するピュータリン(清教徒)は神から与えられた天職として職業活動をおこなう。勤勉で、より多く働き、隣人愛の精神を実践し、必要とされるものを適正価格で提供すれば、結果的に儲かるという考え方です。即ち「懸命に働いていれば物を買ってもらえるし、お金も貸してもらえる。しかし、墮落して働かなければ、又、遊びほうけているようでしたら、買ってもらえないし、貸した金はすぐ返せと言われるだろう。」ということです。

労働が絶対的な自己目的であって「天職」であるということです。同等に仕事に励むという心情が資本主義の発展には不可欠でありました。これは産業革命があった頃の話です。社会とそれに合った宗教的な考え方を結びつけていったのではないかと思います。

○東洋の職業観

儒教(孔子の思想)において「天」とは、ある理想

の状態を目指す意思(天意)を持った存在であり、一人ひとりの人間にある使命(天命)と才能(天分)を与えている。自らの天分を生かし、天命に従った仕事を天職」という。これが「天職」の解釈です。四国の社会構成に四民という制度があります。官吏、農民、職人、商人です。農民、職人、商人は平等で位の階層はありません。それにならったように出てきたのが江戸時代の士農工商です。

宗教改革後の西洋思想と二宮尊徳の儒教で培われた東洋思想とが職業における「勤勉と儉約のもつ価値」という同じ思想に到達しております。西洋思想と二宮尊徳が打ち合わせをした訳ではありませんが、同じ様な考え方に到達しております。プロテスタント以降です。滅私奉公という言葉が日本ではよく使われていました。丁稚、手代、番頭が私を滅して私利や私情をおさえる労働精神を持つもので、超我の奉仕とはちょっと意味合いが違います。滅私というのは自分を殺した形ですが、超我の奉仕は自分を生かした上でどうするかということですので、そここのところを感じとっていただきたいと思えます。

二宮尊徳の言葉に「道徳なき経済は罪悪であり、経済なき道徳は寝言である」というのがあります。確かにそうではないかと思う訳です。

○宗教倫理と実業倫理

宗教倫理—お客様に納めた商品に欠陥があることが判明した場合、すべてを回収し、修理して届けるというアフターサービスの実行により計算上倒産することが考えられるとき。サービスを実行する。自己犠牲の奉仕。結果、倒産したら、雇用責任、配当責任、背任罪、家族、奉仕、負債等の問題が発生します。

実業倫理—溺れそうになっている二人がいます。そこへ一枚の板が流れてきます。二人でその板につかまると沈んでしまいます。その時、自分だけが板につかまって助かるのか、自分が死んでも相手に板を譲るのかという問に対してギリシャの哲学者カルネアデスは言っています。「自分の命を無視して他人の命に拘泥するのは愚かである。」自己犠牲ではなく、自己確立の上で奉仕第一、自己第二と言っているのではないのでしょうか。神との約束は破ることは出来ないかも知れないが、人間との約束は変更が可能である。

奴隷貿易—奴隷商人即ち最初に奴隷貿易を始めたのはポルトガル人だそうです。アフリカ西海岸の王様達が受け付けたそうです。奴隷船に乗せて運んでいました。奴隷貿易の禁止をしたのはイギリスが1807年海軍力をもってしました。日本でも人身売買がありました。アメリカで奴隷が解放されたのは1863年です。

※職業の創設、背景にある宗教等、スライドを使用して、説明していただきました。